

# 地域の子どもを地域ではぐくむ!

「小学校区教育協議会～はぐくみネット～」事業 問合せ 各小学校または市民協働課 7階73番窓口 ☎6659-9734

学校・家庭・地域が一体となり、人と人のつながりによって子どもをはぐくむ取組みです。

小学校を拠点に、学校教育への相互協力やイベントの開催、情報発信を行っています。

皆様のご参加・ご協力をお待ちしております!

## 新今宮小学校

### 登校時見守り活動



新今宮小学校に通う児童たちが安全に登校できるようにボランティアの方々に交差点付近で見守り活動をしていただいています。

## 岸里小学校

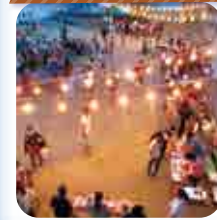
### 登校時の見守り活動



児童が安全に登校できるよう、地域の方と一緒に校区全域で見守り活動を実施しています。

## 北津守小学校

### 北津守子どもカーニバル



8月25日(土)に「北津守子どもカーニバル」を開催。たくさんのお店が出店され集まった子ども達も大喜び。最後に毎年恒例の花火を打ち上げ、夏休み最後の思い出として大好評のうちに終わりました。

## 梅南津守小学校

### キッズキッチン・和食



お米をとぐ、豆腐の手のひら切り、具材の炒り煮、ドキドキ楽しくがんばりました。

## 松之宮小学校

### もちつき大会



年末のもちつき大会で、児童たちが頑張ってくれました。たくさんの卒業生も参加してくれて大いに賑わい、年末らしさが感じられた1日でした。

## 南津守小学校

### なんつPTA祭



和太鼓集団「烈火」を講師にお招きして和太鼓体験を開催しました。迫力ある太鼓のリズムに親子で挑戦し、熱気あふれる楽しいひと時となりました。

## 玉出小学校

### 森のつみ木広場



1万個のつみ木を使って、みんなで「つみ木のまち」を作りました。子どもと地域の人たちとのふれあいの場となり、楽しいひとときを過ごしました。

## 千本小学校

### もちつき大会



千本小学校の校庭にて、児童・保護者・地域の皆様方と「もちつき」を行い、楽しい時間を過ごしました。

## 金塚小学校

### 金塚オータムフェスタ



6年生有志によるキッズマートや松虫中学校吹奏楽部によるミニコンサートも盛り上がり、地域とのつながりが深まりました。

## 天下茶屋小学校

### わくわく劇場



モジャ博士が発明したシャボン玉でみんなが遊びました。シャボン玉は洗剤と水と砂糖で作れるんだって!!

## 橘小学校

### 授業で交通安全教室開催



低学年は「見る・止まる・守る」高学年は「自転車の乗り方」を西成警察のご協力で学習しました。

## 晴明丘学校

### はぐくみネット見守り隊



毎朝、校区のいろいろなところで、子どもたちの安全を見守っていただいています。おかげで安心して登校できています。

## 長橋小学校

### 子どもみこしだよ!全員集合



小学校PTAと地域の皆さんと恒例の「子どもみこし」で盛り上がりましました。

## 晴明丘南小学校

### お年よりにこここ大作戦



3年生が地域のお年よりのために「お年よりにこここ大作戦」に取り組みました。晴寿会をはじめ、地域のお年よりの方々と一緒に「町調べ」を行い、地域のお年よりとたくさんふれあうことができました。

## 人権コラム

### 子どもの人権を考える ～子どもの権利条約より

北野 真由美さん (NPO法人 えんばわめんと堺 代表理事)



子どもたちの基本的人権を国際的に保障するために、1989年第44回国連総会で採択された「子どもの権利条約」。日本がこの条約に批准(1994年)してから来年で25周年を迎える。

今18歳未満の人たち、そして私たちおとなは、この権利条約を理解して毎日過ごしているだろうか?一人ひとりが子どもだった頃と照らしながら、子どもの人権がなぜ大事なのかを考えていきたいと思う。

私たち「NPO法人えんばわめんと堺」の活動は、主に子どもの人権をベースにワークショップ(参加型学習)を実施している。ワークショップを通じて子どもの本音を聴く活動である。就学前の4、5歳から小中高・支援学校と教育現場が多いが、最近では、放課後デイサービス・学童保育などで実施することもある。中学校で黒板の前に立ち、初めに感じるの、小学生までの子どもの態度や姿勢とは違うということだ。前向きに関心をもってくれる中学生もいるが、少し遠い目で私たちおとなを計るように見ていることもある。その中で印象的な例を紹介したい。

ある時のこと、「皆さん、こんにちは!今日は一人ひとりが大切だということと一緒に考えるために来ました」と私が発声した瞬間、教室中に響くような大きな声で、「はあ?うとうしいねん!もううざいって!」といった反応があった。ファシリテーターとしては、こちらからの発信に反応があることは大歓迎である。「ああ、今うとうしい?うざいって言ってくれた?ありがとう」と

応じると、「あんなあ、なんでうざいか教えたらか」と、少し舌を巻くような言い方でやってきた。私は「教えて!教えて!」とその生徒に近づき、向き合った。私はこの瞬間が大好きでワクワクする。すると、「あんなあ、おとなは一人ひとり大切って言うけど、勉強できるやつしか見てないやろう。おれらの言うことなんか聴かんやろう。なにが大切やねん。もう、うとうしいって思うわ。もういい!うざいって感じ!」とその生徒が言った。なるほど、多くのおとなが真摯に受け止めるべき言葉である。大事なことを言ってくれたことへの感謝の言葉とともに、他の人にも伝えていかに了解を得たい旨を伝えると、その生徒は「そんな良いこと言ったかな」と驚いた表情を見せた。そして、この生徒だけではなく、周りの生徒たちの様子も変化していった。

子どもの権利や人権を考える時、この中学生に対して私がやったことは二つ。一つは、正誤で注意や評価するのではなく、生徒の発言を気持ちとして受け止めた。そしてもう一つは、この生徒の発言を尊重した(その発言を、他の人に言っていかがうか了解を取った)。このことはエンパワメントの考え方に基づいており、エンパワメントの関わりで、その生徒自身が本来持つ力を発揮してくれたと考えている。子どもが力を最大限に発揮できるようその場への参加を促し、動きかけることは、子どもにやさしい地域づくりにつながると思う。そしてそれは、先生や親だけでなく、地域の一人ひとりのおとなの果たす役割であるとも思う。私たちおとなが子どもに接する際は、このようなエンパワメントの関わりを心がけたいものだ。

※エンパワメント… 私たちそれぞれが潜在的に持っているパワーや個性、可能性をふたたび取り戻し、社会に向けて動きかけること。

問合せ 市民協働課 7階73番窓口 ☎6659-9734